



マーシャル方面遺族会  
 (旧クエゼリン方面戦没者遺族会)  
 郵便番号 154  
 世田谷区野沢 3-11-3  
 電話 東京 (421) 3614  
 振替口座東京 93487 番  
 編集兼発行人 浮田信家

殉国の霊、安らかに眠り下さい

浮田信家

本年二月六日の慰霊祭に「マーシャル諸島、ギルバート諸島、ナウル島の各長官は、祖国存亡の危機に尊い一命を投じた殉国者あなた方に敬虔な祈りを捧げております」との祭文が奉読されました。各長官は、かつての敵国民として好感をもち得ない筈の我々現地派遣員を、殉国者の遺族という理由から極めて懇懇の態度で迎えられました。過日京都で行われた慰霊祭のとき山田京都副知事は「国難に殉じた者の慰霊は生き残った者の当然の勤めです」と励まされました。本年三月タラワ島を訪れた水落さんから「あなた方が昨年建立した同島の慰霊碑はそのまます守られ、周囲は綺麗に清掃されたので参拝し心から御冥福を祈りました」と。

ややもすると太平洋戦争を始めたのが誤りであつたとし、戦死者に冷たい眼を注ぐものがあると聞きます。あなた方は皆一途に祖国の危機を思い国に殉ぜられました。

あなた方が守備した戦地は広大な南太平洋上の孤島、敵が飛行場として利用するのを防ぐため死守されたのです。

大東亜戦争のもつ意義は今日誰かが判定できません。五十年、百年経ってはじめて最後の判断が下されると故瀧源一郎先生が言い遣されました。

我々が昨年七月訪れたナウル島は、今年一月末共和国として独立しましたが非戦闘員である島の人々は戦争中トラック島に移され、戦禍を免れたことに深く恩を感じ、今回の独立もこの戦争のお陰と感謝し、真面目に、最後に世界に君臨するのは日本であるとして大言しています。

五十年、百年を待たず今日すでに日本国内又外国の識者はあなた方の崇高な犠牲が多くの国、多くの人々に、多くの幸福をもたらしたとして感謝しております。殉国の霊安らかに眠り下さい。



タロア島住民・米人も共に

英霊を偲んで

(マロエラップ環礁)

目次

殉国の霊、安らかに眠り下さい……………浮田 信家(1)

クエゼリン環礁警備日誌(7)……………有馬 成甫(2)

マロエラップ環礁の印象……………浮田 信家(3)

クサイ島……………佐竹 エス(5)

遺作と遺影……………(6)

会員の皆様！是非本部にお立寄り下さい……………(7)

マーシャル諸島の船便……………(8)

ギルバート諸島……………(8)

沖繩マジユロ間ジェット機便誕生……………(8)

本年二月六日の慰霊祭と定期総会報告……………(8)

タラワ島……………佐竹 エス(9)

京都市での慰霊祭と現地報告会……………(10)

現地へ渡航、墓参御希望の方へ……………(10)

遺族援護に関係ある法律の改正等の御案内……………(11)

靖国神社御創立百年祭奉祝行事について……………(11)

現地慰霊碑建立事業に關連して……………(12)

第四回会計報告と43年度予算……………(12)

現地の写真をお頒けします……………(13)

寄附者芳名……………(13)

事務局だより……………(16)



# クエゼリン環礁警備日記 (5)

文学博士  
(元海軍少将)

有馬成甫

昭和十八年

七月八日(木)曇 新着の公報に依り六月一日付にて特別俸を受くることになりしを知る。

午前津田大佐来訪。種々欲談して帰る。昨夜上申中の建築工事許可来る。予定計画着々整備に向う。喜ぶべし。

午後司令部に行く。南東方面、ニュージョージア及びサラモア方面の戦況電報を閲覧す。夜司令部にて映画を見る。

七月九日(金)雨 未明より大雨。「防弾土壘構造及び之に対する所見」を脱稿す。

大本営発表によれば敵はニュージョージア島ムンダの南方ルビアナ島に進出し来れり。

午後南砲台地区の弾薬庫及び糧食庫の縄張をなす。先森陸軍大佐及び北村陸軍少佐を夕食に招待し欲談す。

七月十日(土)晴 先森大佐の大島島に赴任するを見送る。山九運輸会社(門司)にあり人夫供給の事業を兼ねの福谷氏挨拶に来る。

明日新築兵舎(隊員にて建造せる)に移転予定の陸戦隊第二小隊長を夕食に招待し種々向後の事を指示す。司令部に行く。部署の改正に着手す。

七月十一日(日) 午前部署改正案研究。午後第三砲台長を呼び移転計画を立案す。陸戦隊第二小

隊新兵舎に移転す。この処は中部地区陣地の守備に當るに好都合の所に一同大いに張り切る。

七月十二日(月)快晴 数日前米軍シロリー島に上陸せりとの報あり。午前第四艦隊砲術参謀来訪。防備に関する事を色々談す。

午前九時三十分B42二機ヤルトに來襲投弾す。同十一時三十分大型機マキン島に來襲、投弾せずして去る。

午後二時ビキニ島に派遣せる福神丸、大島島に不時着したる敵機(B24)の乗員六名を救助せりと。

第六十六警備隊司令志賀大佐、第六十七警備隊司令添岡大佐、第六十四警備隊司令吉見大佐来泊す

軍需支部長村田利男中佐着任す。七月十三日(火)曇 第四艦隊砲術参謀出発。クエゼリン神社に参拝す。

第二十御影丸ナウル島より入港す。航空燃料輸送任務の爲なり。途中ナウル島附近にて敵機の爆撃を受く。地点(北緯二度三五分、東經一六一度二分)、また地点(北緯六度一七分、東經一六七度三分)にて潜水艦の攻撃を受けたるも魚雷命中せざりしとのこと。

第二十九駆潜艇長来訪。護送任務中のことにつき色々所見を聞く。

七月十四日(水)晴 午前六時三十分司令官を訪ひ、光島丸の兵器陸揚について所見を述べ。

午前七時機雷学校教官指導の下に行われたる仮称式爆雷の講習会を傍聴す。本日より来る十九日迄開催の由。シंगाポールにて函獲せる英国の爆雷を改造せるもの由。深度一五〇米迄、可能有効・安全性を増大せる由。

タロア島(マロエラップ環礁)第六十三警備隊司令より左の報告あり。

去る十二日午前十時三十分、当該隊附属気象観測船海幸丸、海上に浮泛せる筏上にあらし、米国陸軍将校二名の俘虜を收容す。尋問略書と共に身柄をクエゼリンに送附す。

(一) 俘虜訊問書

(二) 身分姓名  
インデアナ州出身。陸軍中尉ラッセル・A・フィリップス。  
一九一六年八月一日生れ(二十七才)

ニューヨーク州出身。陸軍中尉ルイス・S・ザンペリニ。一九

一七年一月二十六日生れ(二六才)

(三) 所属部隊  
第十二飛行中隊  
第四十二飛行中隊  
俘虜となるに至れる経緯

右隊(目下オアフ島に所在す)に属せる兩名は他の八名(偵察者一名を含む)の搭乗員と共にB25型飛行機に搭乗し、去る五月二十八日午前七時十五分オアフ飛行場を離陸しバルミラ島北西約三五〇哩の洋面上にて機械に故障を生じ海面に不時着の止むなきに至れり。当の生存者たる右兩名及び後尾射手計三名は救命筏(ゴム製舟型浮袋)にして軽金属製小型艇、応急糧食、真水缶、信号銃銃等の備附あり)

二個に乘し漂泊生活を開始したるに七日目に至り糧食絶えて後は主として魚鳥を捕え食して生命の維持を図りつありし折柄二十七日目(六月二十三日)に日本飛行機より射撃せられ一方の救命筏に約十発の弾を受けたるも死傷なく二十三日目(六月二十九日)後尾射手は餓死せり。

而して四十六日(七月十二日)午前十時三十分に至り日本気象観測艇(第六十三警備隊附属)に救助せられたり。

(四) 其他訊問事項

(イ) ラッセル・A・フィリップス  
中尉は去る四月B24爆撃機十二機の編隊にて相次でナウル島を空襲せる際第一次爆撃隊に加わり戦闘機三機の攻撃を受け、十五分間に亘れる空中戦闘にて搭乗機は甚大なる損害を受け一名戦死、五名負傷し計五〇発に及ぶ被弾を浴び五時間の後進発飛行場に達するを得ず外廓飛行場フナフチに帰投せり。

被害の最大なりしは彼の搭乗機にて他の十三機は孰れも進発飛行場に帰投せり。

五月一日、彼の所属せる第三〇七爆撃隊はガダルカナル方面に進出せる際、彼はオアフ島所在の第十一爆撃隊第四十二飛行中隊に転動を命ぜられたり。

(ロ) ルイス・S・ザンペリニ中尉は米軍運動界に相当著名なる一哩競走選手にして一九三六年オアリムビックに参加せりと。また昨年十二月二十三日のウェーキ島爆撃にも参加せりと。

(ハ) フィリップスの語る所によれば、バルミラは中継飛行基地にしてフナフチはカントンの外廓飛行場なりと。

(ニ) 爆撃隊(Bomb Group)は四ヶ飛行中隊(Squadron)にて編成せらる。飛行中隊は8機乃至12機より成ると云う。  
なお、この二名の捕虜は明日送付するとの予報ありたるにより、その取扱に關し石橋主計長に説明を聞き、收容の準備を行ありしむ。夜敵潜水艦出陣の警報あり。警戒の報を發す。あと郵便局長を呼び「三井寺」を誦う。

現地慰霊  
マーシャルの  
島を巡りし  
はらからに  
まみえし英霊  
今ぞやすかれ  
常任幹事 屋間 楽平

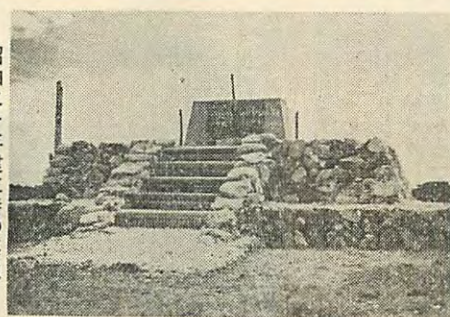


当時のクエゼリン神社



# マロエラップ環礁の印象

現地派遣員 浮田信家



昭和二十年建立時の墓地

府を訪れ解除の見通しを尋ねましたが連日新患が発生、ラジオも気があせるニュースばかりです。一日二日発生がないと喜んだ夕方又も新患発生というニュースに眉をひそめることもしばしばでした。私達が島外に出られない以上、島の要人はすべて在島している筈だから、この間になるべく多くの

人との親睦をはかることにしました。

マージナル地区行政長官ドワイト・ハイネ氏、ミエコ会社社長アマタ・カブア氏等と何回も面接の機会に恵まれ、お互い気心が判る人間関係ができて、その後の折衝に好結果をもたらせました。

9頁佐竹幹事の手記「タラワ」に記されたナウル行きタラワク、ラタック号の行動予定を変更させ、ヤルト島に寄港してもらえたのもこの一例であります。

十二日六月七日に至りクワラントーンが解除になりました。さて次はいつ、どこに回る船が出港するかという事です。クワラントーン島の解除についてこんどは船便につきミエコ汽船、キッコ汽船に日参どころか日に何回となく訪れて早くきめるよう注文しました。

解除からまた一週間たち六月十二日朝突然本当に突如キッコ汽船から使いをよこし、コブラ集貨船ミレットビ号が本日午後四時出港マロエラップ環礁、アウル環礁、アール環礁、ミレ環礁を回る。携行品は午前十一時までに積込んでくれとのことでした。準備は完成し待機していたので驚きませんが慰霊碑や托されたお供物などは島々によって違いました。航海日録のよって携行食糧品や、着換え等の数もちがいますので、それこそ汗ダクになって準備にかりました。

た。この航海では

- 慰霊碑二本、祭壇用板二枚
- スコップ、小シヤベル、鎌
- 遺族各位から托されたお供物
- 本会から準備したお供物二箱
- 各島一万円相当額の土産品
- 慰霊祭用礼服一式、靴など一箱
- 薬品、軽便治療用具一式一箱
- 石油コンロ、大型魔法ビン
- 米、味噌二十種に上る食糧品
- ブレイヤ、民謡のレコード
- 寝具、蚊帳、草蓆
- 写真機小型二、中型一、8ミリ一
- 参考書類・海図・パスポート・ビザ(入国許可証)

結局十六個の荷物を船に積み込みました。

ミレットビ号は四時三十分埠頭を離れました。太平洋ですから多少の動揺はありましたが翌朝、待ちに待ったマロエラップ環礁の北端カペン島に投錨しました。

島民の感情はどうか。このときほど真剣に案じたことはありません。我々は日本のためにひどい目にあつたという態度で当られたらどうしよう。取骨どころか目的の一つも果さず追いかえられるかもしれない。次から次に心配が生まれました。カペン島では戦前のおりました記録なく戦死者も書いておられませんのでこのために上陸する必要はなかったのですが、目的地タロア島はこの村長の管下にあるのかを聞くため、第一便のボートで上陸場に向いました。

勿論私達がこの舟で来るなどは夢にも知らない筈の島民ですがマージナルから船が入つたというので海岸には数十名の人がボートの着くのを待っていました。

埠頭も棧橋も全くないので船首を砂浜にのし上げて、上陸する者は海に飛び込み、海水につかつて水際まで歩きます。外出着の服装なので、女の人には都合が悪いのですが、何ともなりません。このあとマージナル諸島での上陸はいつこの方法でした。

私達が上陸するなり二・三十人の島民が私達をとり囲みました。何れも体格のいい、裸に近い、寡黙な顔立ちの連中ばかりです。日本語がわかるのか、英語で話すのかまよっているとその中一人の男が「今日は」とよくわかる日本語で話しかけてくれましたのでホッとしました。見かけに似合わない大人しい優しい人々でした。戦闘はなかったとか、見張りのため日本軍人が数人いたとか、タロア島はチエーン島村長の管下にあるなどいろいろ話してくれました。

一時間余歩いて島をすっかり見てまわりました。会う人毎に「イヤコエ」(環礁7号1頁参照)を連呼し、握手を求め、中には自宅に招き椰子の実や、鶏を御馳走するなど想像に反した歓待を受けました。船ではコブラの搭載作業が夜半まで続いたようでした。

翌十四日あさ六時投錨。南下して二時間後チエーン島に錨を投じました。早速村長が来船したのでタロア島での取骨、慰霊の計画を話ししましたところ快諾し、島民に協力して貰うよう親切に説明してくれました。ミレットビは翌日昼過ぎまで碇泊の予定であったので、私達はミレットビ号のボートで先行することとなり、九時出発しました。タロア島まで十五哩余。途中オ

ロット島で船客三名を下しました。上陸場近くに日本の飛行機の残骸があり、激戦の跡に近寄ったことを感じ、更にゲネット島には当時使用した無線電信の鉄塔が一本淋しく残っているのを見ました。出発してから三十分もたない頃急に物凄いスコールに襲われ、瀧のような雨、ボートが転覆しそうな強風、高浪、それにボートの速力により船首からすくい上げる海水、一時はどなるかのように揺れました。私は垢汲みで排水につとめ、佐竹幹事は、ズブ濡れになって荷物にかけたビニールのカバーを押え通しました。四十分間程の活劇の場面でした。十一時十分目的のタロア島に無事着きました。

この島の死守にあたられた第六十三警備隊の司令鎌田正一海軍少将から出発前に撤退当時の詳細を承りました。二十年十月十日故柳村少将以下二〇五九柱(海軍一八五〇柱、陸軍二〇九柱)の遺骨を埋葬され墓標を建てられた写真によって想像していた焼野原とは打って代った二十七・八米もあるうという椰子密生の島でした。上陸用の突堤の上に据えつけられた信号機すべて爆撃によって無惨に崩壊して使用出来ません。カペン島の場合と同じく海に飛び込んでの上陸です。十四個の荷物を島民たちの協力を得て浜に上げました。

今この島にはマネジア・ビー(MANEJA・B)さんの一族四世帯・三十人だけ住んでいます。私達の上陸点、かつての突堤の



夕口に残る見張所と砲架



像つきません。マネジアさん達は七・八十種もあろうかと思われ椰子刀を振って枝や蔓を切り払い一足一足前進してやっと着きました。二十年十月建てられた碑は形なく、前後に設けられた階段も、周囲の石垣も全く原形がありません。

マネジアさんは「米軍が墓所を意識して爆撃したのかどうか明らかでないが、日本軍撤退後突堤を爆撃し、その崩潰をはかったようです。その中の一弾が墓所の北側至近点に投下されたため、このようになったと思います」と。碑文を書かれた中央の部分は探し出

せませんでした。これを採るに左右のコンクリート塊の中一つが近くに発見したのでそれを建て日本から携えた墓標をそれに添えて建てて来ました。島民は勿論、ミルトビから附いて来た米国のピースコープス(平和部隊)の二婦人は米軍の墓標破砕に眉をひそめ、慰霊祭には焼香をして戦没者の冥福を祈りました。その日は西海岸を二往復の途程の撮影も行い夕刻、前記廃家に帰りました。

作業に協力した島民と二人の米婦人を招き、佐竹幹事の努力によるあたたかい白飯、味噌汁、その他慰霊祭壇に供えた、内地から携えた数々の日本食をもって労をねぎらいました。この間プレーヤからは英霊各位生前なつかしく聞かれたソーラン節、追分からはじま

つて鹿児島のおはら節に及ぶ二十余の民謡を捧げました。その後二階のコンクリートの上に椰子の葉製の莫蔭を敷き、タオ

つけ根に特殊火点のコンクリートがそのまゝ残り、一帯帯生生活してました。そこから北東およそ百米、ある文献には仮倉庫と書かれた鉄筋コンクリート一部三階建の廃家があり荷物はこわれた階段を上って二階の床にはこびりました。二階の屋根から一階まで貫通した弾痕三個所、あちこちに錆びた鉄筋が無気味に露出し、周囲の壁には無数の弾痕、建物の囲りの椰子やパン木の樹頂は屋上より更に多くのび勿論窓など全然ない廃家で

した。荷物をはこび終って、船から持参のパンで昼食をすませ、早々にして戦跡をまわりました。まず西

ルマットをその上に敷き、それぞれ蚊帳を吊って横になりました。仰向いても横になっても冷たいコンクリートの上は寝にくく、手にふれる椰子の葉、陸海軍将兵の夢の跡、万感胸に迫るといいますか次から次に昔が思われねむれませんでしたが、朝来の疲れと星明りの外灯火のない暗さに誘われいつかウトウト眠に就きました。二人の米婦人も。

十五日早朝起きて荷物をまとめ鎌田少将、土屋太郎氏、佐藤鉄次郎氏等から贈られた資料をたよりに右廻りに戦跡を尋ねました。北西端の見張所はそのままでした。25ミリの機関銃はありませんでした。北端では見張所、防波堤、特殊火点、15センチ平射砲、など赤錆びて散在し、東岸には日本の飛行機や北岸で見たようなものが散在していました。時おりジャングルから砲口だけのぞかしている十五種砲もありました。

約三時間歩きつづけて一周しました。警備隊が撤退前戦死者の遺体は処理され立派な墓標を建立してあります。まだ椰子の木ものびさらぬ旌野原に復帰した島民も誰一人遺体を見たものがありません。従って取骨という作業こそありませんでしたが、戦後はじめての慰霊に英霊は必ずやお悦び下さったと思うのでした。

島民の方々も久しぶりにあつ

た日本人をして久しぶりに口にしたい白飯に味噌汁、どんなに嬉しかったでしょうか。四、五〇個も入ったババイヤの袋とか私達が見たこともなかった立派な貝などいたできました。墓所はいつまでもお守りしますといつてくれました。昼過ぎミルトビ号は沖合に仮泊し私達を収容するためのボートを送って迎え送ってくれました。島民は全員私達を浜辺で送ってくれました。

このときでした。名の知れぬ海鳥が「羽私達のところには舞いおりて来ました。肩にとまり、膝にのり、手にとまって逃げようとしません。一泊二日一〇〇〇余の英霊と過した感傷のあと、この鳥の霊はなれないのは鳥ではなくて英霊が姿をかえてそれを惜しみに来られたのだとしか思えませんでした。

ボートのスクリーナーが回転をはじめたとき、佐竹さんは鳥の頭を撫で末永く安らかに眠みなさいといいきかせて放しました。ここでも島民の皆さんはいつまでも私等を見送って下さいました。



霊鳥派遣員の手を去らず

四国での現地報告会

本年四月七日(日) 観音寺市の秋山正清様と奥田マス様のお骨折によって四国四県から七十余名の会員がご集りになり現地報告会が開かれました。本部から現地派遣員の一人浮田常任幹事が参加しました。

午前十一時開会。秋山正清殿の県支部結成の提案がありました。結局各県毎とせず四国支部として各県から三・四名の世話人を出しその互選によって代表世話人を決めることに決定し、秋山正清氏が代表世話人に決定されました。

観音寺が四国の交通上の中心であるところから毎年観音寺市で行う旨の意見も出ました。十一時五十分から本部浮田常任幹事の現地報告会に入りました。地図によって地理的概念、戦況の全般の説明。午後一時広間で一緒に昼食、同じ地域の遺族という親しみから前からの知人のようになごやかな一時でした。二時からスライド、八ミリを併用し各島々の現状の説明を行いました。三時三十分一応閉会しましたが、殆んど全員残られました。汽車の時間の都合で名残を惜んでお別れしました。

現地慰霊地域が広いのとスライドも八ミリも大量のため、もう少し時間をとっていただいた方がよかったです。ではないかと反省されました。



# クサイ島

佐 竹 エ ス

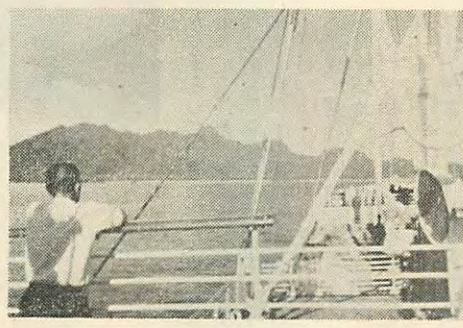
四月二十三日横浜中央棧橋から出航したパンフィックアイランド号は父島、サイパン、グアム、トラック、ボナベと日本からの荷物を降し乍ら進まれています。私達の内地出発も二月末の予定便が二ヶ月も遅れてしまいました。この船で来る日用雑貨、食料品を待っている島では何もなくならず大変です。荷卸しも多くなり日程も延びもう横浜を出て一ヶ月近く過ぎ、ボナベ港を五月二十日午前五時三〇分(日本時間は三時三〇分)クサイ島へ向け出航しました。

クサイ島は私達の慰霊訪問地です。始めての目的地良く出来るよう祈り乍ら船長さんがクサイ島の村長さんを紹介してあげるからと云って下さいましたし、又三角先生(北海道札幌にいらつしやる方でマインシャル方面慰霊訪問のニュースを聞き、手紙をくださった元クサイ島公学校長)からの手紙もあり元日本人学校教師ミルトン氏宛の便りも持参してありますが、行って見なければわかりません。其の中船中で話しあったアメリカ人平和部隊のボブさんがクサイ島に住んでいるとの事、わたり船とたずねますとミルトン氏の村の村長が乗船していることもわかり、又総村長(クサイ全島支配者)を呼んであげるからと云われました。

四月二十三日横浜中央棧橋から出航したパンフィックアイランド号は父島、サイパン、グアム、トラック、ボナベと日本からの荷物を降し乍ら進まれています。私達の内地出発も二月末の予定便が二ヶ月も遅れてしまいました。この船で来る日用雑貨、食料品を待っている島では何もなくならず大変です。荷卸しも多くなり日程も延びもう横浜を出て一ヶ月近く過ぎ、ボナベ港を五月二十日午前五時三〇分(日本時間は三時三〇分)クサイ島へ向け出航しました。クサイ島は私達の慰霊訪問地です。始めての目的地良く出来るよう祈り乍ら船長さんがクサイ島の村長さんを紹介してあげるからと云って下さいましたし、又三角先生(北海道札幌にいらつしやる方でマインシャル方面慰霊訪問のニュースを聞き、手紙をくださった元クサイ島公学校長)からの手紙もあり元日本人学校教師ミルトン氏宛の便りも持参してありますが、行って見なければわかりません。其の中船中で話しあったアメリカ人平和部隊のボブさんがクサイ島に住んでいるとの事、わたり船とたずねますとミルトン氏の村の村長が乗船していることもわかり、又総村長(クサイ全島支配者)を呼んであげるからと云われました。

明してくれました。クサイ島は女人が寝ている姿に似ているのでスリーピングレディーとも云っています。午後一時頃クサイ島到着ですが棧橋がありません。ボブさんが先に下船。総村長をつれて来るからと云って間もなくカヌーで見えられ日本語も話します。

其のカヌーに乗りうつり上陸しましたが、始めてのカヌー、タラ



ップから乗りうつるのに一苦労波でタラップもカヌーも上下するし、カヌーは長五米、幅五〇センチの細長く、前後左右と揺れているのに飛び降りなければなりません。きれいな海も牙をむいているような感じでした。暑さだけでなく冷汗でぐっしょりになりましたが、島民は小さな子供達まで上手にカヌーで荷物の運搬をしてい

ます。

総村長トシエ氏の案内で日本人墓地、公学校三角校長住宅跡を廻り、私達の目的を話し、二三ヶ月後マインシャルの婦人に慰霊碑建立を約束し、帰船しました。ミルトン氏が船に訪れられ、是非家迄と招待を受けました。明朝五時マジュロに向け出航予定になっていきますので再会を約し別れました。翌朝総村長、ボブ氏他一名が蜜柑やネーブルを大きな箱一杯持って来て下さいました。マインシャルには野菜果物がなくクサイ島から持っていくので船客も多勢になりバナナ、蜜柑、ネーブル、タコの実等を持っていました。五時出航が仲々出ません。横浜を出たら砂単位の生活は忘れ船まかせの気持でないと生活が出来ないと云われ又なれて来ましたので気にもなりません。其のうちマジユロに伝染病発生のため、先にクエゼリンに向け十時出航するとクサイ島を後にしました。多分英霊が呼んで下さったのでしょう。

## 再度の訪問

マジユロを九月十七日午前九時五〇分出港。十九日午前九時クサイ島到着。午後一時から慰霊祭を行いました。最後でし再度であり慰霊祭も海岸の日本人墓地跡でおごそかに行う事が出来ました。島民一〇〇人以上集まり全員私と同じように線香を建て焼香して下さいました。

何処の島も同じに日本から持参の墓標を建て白布を敷き靖国神社の神酒、神饌、煙草を始め白米の御飯、味噌汁、お茶、梅干、其の

他各地方の名産等二〇種余のお供をし、花輪を飾り草花とローソク線香と出来るだけ当時の兵士が偲ばれた故郷の思い出を見て頂くよう飾り、靖国神社鈴木禰宣謹書の祭文を浮田さんが奉読、後焼香です。慰霊祭終了後日本食(お供への品々)等を村長始め手伝つて下さった方を招いて食事と共に致しました。當時を思い出す民話、童話のレコードを掛け、車座になり当時の勇士の話に花を咲かせる島民の言葉に胸を打たれ乍ら平和な祖国日本を祈り、南海の眼りにつかれた三万五千の勇士の御冥福をお祈り致しました。月の光、椰子の葉蔭の夕食会当時の日本軍の話がつい最近のように懐しがり、夜明迄続く事もありました。大きな椰子の葉ずれが話しかけて来るような感じでした。

六時クサイ島出航予定、もう二度と訪れる事もない島。これで完全に無事慰霊祭も済みマインシャルの人達にもよくこんな早く出来たと驚かれ、英霊が貴方達を待ちこがれて迎えに来たから出来たのでしよう云われました。パンフィック船上、上甲板から日本人墓地最後の写真を写してましたら、日本人墓地慰霊祭を行ったすぐ前の小さな椰子の木の葉が大きく左右に揺れています。今日は朝から無風で上陸時とても波が静でハイヒールに黒服で楽に上陸出来たのにもと思いつつ四方を見渡したが、揺れているのは其の一本だけです。暫く眺めていたのですが浮田さんも見ているのに何も云いませんし、私も南洋ボケになった等と笑われるようでした。

浮田さんも見ているのに何も云いませんし、私も南洋ボケになった等と笑われるようでした。

ですが、我慢が出来ず浮田さんに話して見て頂きました。これ迄もずいぶん不思議な事がありましたが、やはり一本私達に對し最後の別の挨拶をするかのように大きく揺れています。

やがて出航のため、船が変針を始めた。葉の揺れも止まりました。目的の慰霊も全部終了。クサイ島のスリーピングレディーの姿も夕暮の中に消えて行きました。

九時(日本時間七時)のNHK



ニュースが暫く振りで懐しく聞えて来ました。よく聴きとれませんが国民体育大会や相撲のようです。マインシャルを廻っている時は温度計も見ようともしませんが、クサイ島からボナベ行の船上、午後九時(日本時間七時)三三度です。心地よい海風を受け頭上の南十字星に別れをおしみつ、皆さんの待つ横浜へ早く帰って、現地の状況を出来る限りおつたえ致そうと心に誓いました。



# 遺作と遺影

## 故伊瀬仙之助殿より



(昭19・2・6・クエゼリン島にて戦死・南洋第一支隊・陸軍兵長・島根県・二十五才)

父母様 明けましてお目出度う御座居ます。大東亜戦下第三週の新年を迎えました。敢えて音信なきも家内一同皆元気に送日致していることと推察致します。

思い出しても寒そうな嵐のすざぶ冬空を感じますが、此処南洋の戦線は寒さ知らずの、連日の猛暑が続き酷熱に見舞れつともよく暑さに堪え益々志気旺盛に一生懸命御奉公致し居ります故何卒御安心下さい。当地に参りましてより、

月(註・月の上に数字が一字書いてあったが機密保持のため抹消してあるので何カ月か不明)も過ぎ去りましたが故国よりの音信はいまだに受取らず其の後皆の者は如何が致したやかと故国よりの便りをお目出度うと待って居ります。当地からは再三音信致しております。届いているのでせうか。新聞ラジオで御存じの様に南洋は今まさに決戦の時で敵も必死となつて反抗致して来ます。併し戦地の私達は常に困苦に忍へ日夜きやう

の回復に一生懸命戦かかって来ましたが、懐かしく親しんでくれた比島の友達と別れて遠い遠いところにやつて参りました。ここは地図にもあるように赤道直下の近くで暑さは比島以上です。ここは比島とちがって危険性もあり一秒たりとも私達の務めをおろそかにすることはお出来ません。比島には沢山な人も居り、食べ物などは内地よりも豊かですが、ここは内地よりも送って貰うばかりです。それも遠い海を越さなければ着かないのです。友達になつてくれるものもなく、楽しみとてなく三度の食事が何よりのたのしさです。と言つても補給困難なところで腹のまんぞくするだけ食べることが出来ません。内地の皆さんと一しやです。茶わんに盛りぎりです。しかし今は大事な時です。戦争に勝つためには、どんな苦しいこともさししい事も、負けた時の事を思い、皆さんの激励の慰問文に打たれ、笑つて、苦しみも不自由もこらへて居ります。網栄の便りも私にとつては感が無い無量で、家の様子が手にとるように頭の中に浮かんで来ます。どんな偉い人の便りよりも一そうに心を打たれて居ります。淋しい時には出しては読み読みして心を激まして居ります。きこえてくる波の音も静かなものです。

## 故伊瀬仙之助殿より

父母様

網栄さん果実のみのる秋がやって来たね。その後の皆さんも元気で暮して居られる事と思ひます。早く便りしてあげたいのは山々ですが何んと言つてもいそがしい軍務の為めに今日迄便り書く事が出来ませんでした。許して下さい。

パタンの戦闘以来討伐に、掃蕩に比島の良民を助けて建設に治安

に励んでおります。網栄もお父さんお母さんに心配かけずに一生懸命勉強して人からほめられるやうになつてくれ。皆家のものは元気だらうね。手紙を出したいが何枚書いても同じだ。防諜でやかましいのでやすやす話せぬ。では体を大切に勉強して良い子になつてくれ。お父さんお母さんにくれぐれもよろしく。皆によろしく。便りを待つてゐるよ。

## 故伊瀬仙之助殿

### 妹金本政子殿より

網栄様

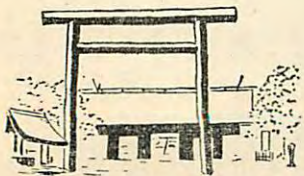
仙之助

前略 御免下さいませ。この度はクエゼリン島戦没者遺族会について何かと御配慮載せ、誠に有難うございました。実は早く御返信申しあげなければなりません。に、次の様な私事の事情にとらはれおそくなりました事を家内一同心からお詫び申しあげます。実は私は山口県のある農家に嫁している伊瀬家の長女でございますが、この度里帰りを致しまして始めて遺族会の発足のあつたことを知りました。母は私の帰るのを待ちわびて早速この便りのあつた事を知らせてくれました。母は目を思い(片目失明)又関節リウマチにおかされ、自分の自由がやつの様な状態で御座います。自分で筆を取ることも出来ず、私の帰るのを待っていたのでございます。昨夜兄の便りを出して見ると遠い昔のあの激しかった戦争当時を思い浮べ、新たな涙にひたつたのでございませ。私も不束ながら亡き兄の意志

を受けついで、中支方面に陸軍看護婦としてお役に立たせて戴きましたが、私は幸に命あつて帰つて参りましたが、あの激しかった時兵隊さんと共に辛い事も、悲しい事も共に分けあつて過して参りました故に、兄が又すべての戦死者の方々の御苦勞が一入身にしみて忍ばれて成らないので御座います。

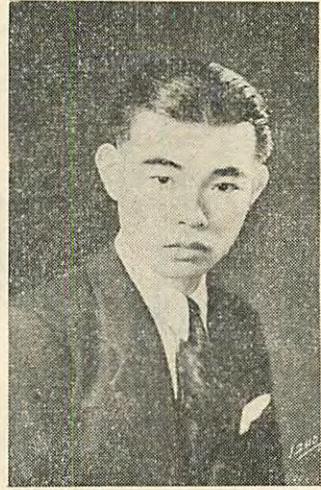
母は金光教信者で私の口から申し上げるのも何ですが、随分信心深い人である教会にお参り致し御先祖様並に兄の冥福を祈つている者で御座います。なほ又毎月六日には兄の命日として半里近くのある市内の護国神社に御参り致し、この頃では社務所の方々と顔見しに成り御懇意にして戴いていると申して居りました。いろいろと私事になつてしまひまして失礼いたしました。この度この会を発足して下さつた御方々に心より感謝致して居ります。

同封の手紙は数ある中に一通は父へ、今一通は妹に來たものを出して見ました。お役に立ちましたら幸と存じます。





故植田 穰 滋殿より



(昭19・2・6・  
クエゼリン島にて  
戦死・軍令部嘱託  
・広島県・二十九  
才)

前略  
御元氣御越年あらせられた事と  
存じます。私も元氣にて毎日一生  
懸命に勤務致して居ります故他事  
乍ら御安心下さいませ御願ひ申  
上げます。内地の様子は如何で  
御座居ますか。寒の氣候にてさぞ  
寒い事と存じて居ります。敬裕、  
房子元氣で居りますか知らん。一  
生懸命にやる様に申し付けて下さ  
います様御願ひ致します。寒さに向  
う折故呉々も御体御大切に致して  
下さいませ御願ひ致します。

色々と書き度き事も御座居ます  
が急いで居ります故何も書けませ  
ん。又改めて。  
内地へ帰る日も今の所解りませ  
ず困って居ります。母上にも色々  
と御都合のあることと存じます  
何れ其の内に帰国出来ることと  
存じます。では御体御大切に。  
近所の方へ呉々も宜敷しく御伝  
言下さいませよう、ではまた  
一月十一日  
母上様  
穰 滋

故安達 政衛殿より



(昭19・2・6・  
クエゼリン島にて戦  
死・海上機動第一旅  
団・陸軍歩兵々長・  
新潟県・二十四才)

拝啓 長らく御無沙汰致しまし  
た。父上様始め皆様にはお変りあ  
りませんか。政衛も元氣で居りま  
す。そちらはもう大分雪も積った

頃でせう。当方は日中は熱さ酷し  
いですが夜ともなれば、そよ風が  
椰子の木蔭をわたり、頭上には南  
十字星が輝いて居ります。父上に  
は新年をひかえて益々忙しい事  
でしょう。町内の皆様にも御無  
沙汰致して居りますが宜敷しく  
御伝へ下あい。

故高橋 常蔵殿



(昭19・2・6・  
クエゼリン島にて戦  
死・芝浦補給部・海  
軍々属・青森県・二十  
九才)

故角谷 謙三殿



(昭19・2・6・  
エビデエ島にて戦死  
・海軍第九五二航空  
隊・海軍上等整備兵  
愛知県・三十四才)

故川島 金太郎殿



(昭19・2・6・  
クエゼリン島にて戦  
死・海上機動第一旅  
団・陸軍工兵兵長・  
茨城県・二十四才)

会員の皆様

是非本部に  
お立寄り下さい

- 一、元朝香宮家からお貸下げ下さった資料
  - 二、昭和三十八年秋原幹事がハワイで返還をうけた我軍戦死者の遺品、遺影
  - 三、篤志会員長谷川敏殿が戦後はじめて持ち帰られた靈砂、写真
  - 四、ニュースによって本会を知り贈られた川崎汽船の中村正十郎殿からのクエゼリン島の珊瑚と鉄木
  - 五、会員各位から贈られた遺書、遺品、遺影
  - 六、各部から本会によせられた戦記、海図
  - 七、戦争当時のスライド、写真
  - 八、創立以降本会の歩みを記録した八ミリ、スライド、写真、文獻など、従来既に本会に集っていた多数の貴重な資料の外、
  - 九、昨年浮田、佐竹両幹事が現地行動中自ら蒐集し、或は現地官民から寄せられた民芸品、産物、文獻、撮影して来た八ミリ映画スライド、写真等本部に保管してあります。
- 会員の皆様に一人のこらず一度は御覧いただきたいと思ひます。
- 新事務所位置・16頁事務局だより参照
- 是非お立寄り下さいませよう、お待ち致します。



# マーシャル諸島 ギルバート諸島

## の 船 便

マーシャル諸島とギルバート諸島は所屬する国が異なることと、同じように産業の少ない経済的にも貧弱な地域であるのでお互い物資の交流もなく貿易関係もありません。従つてこの兩諸島間には定期航路もなく又定期の航空便もありません。事実昨年一月から本年六月まで一年半の間にタラワ島からマジュロに來た船が二回マジュロからタラワ島が一回、マジュロからナウル島が一回、という年に一回多くて二回、便があつたにすぎません。現地派遣員がタラワ島、マキン島、ナウル島その上オジャン島行を計画したことは、今から考えると無謀な計画でありました。

### 沖繩からマジュロへ

#### ジェット機便誕生

クエゼリン環礁のエビゼ島に新居を構えた山田さんから六月二日航空便をいただきました。その中に五月中旬からマジュロ発、グアム・サイパン經由沖繩行きのジェットが就航する様になりましたのでマジュロも大へん近くなりましたとのことが書かれてありました。

又、六月十四日号の週間朝日には、南太平洋調デスよという見

は各島に産出するコブラ集荷船が三隻(ラリックラッタック号四〇〇屯、ミリートビ号三〇〇トン、ミエコクイーン号二〇〇トン)あるだけですが、ラリックラッタックとミエコクイーンはミニエコ汽船の所屬船でありミリートビ号はキッコ汽船の所屬船であります。兩社とも財政上の理由で毎年政府から多額の補助金を受けて会社の経営が保たれていきます。この結果ある環礁に災害でもおきて救援を要するとか急患が発生して救援を要するとかいう事態が生ずると、会社の用務はどうあるかと政府の指令によつて、これらの船がさしむけられます。私達がラリックラッタックでウオッゼに到着したとき船の負傷者を運ぶため、任務を中止してエビゼ島に廻航したり、ミリートビ号で

出して沖繩ハワイ間に新設されたミクロネシア航空のステューワーデスの写真を見せてこの新ローカル線の紹介がのつています。ボーイング707機(日航でも全日空でも使用中のもの)で沖繩からサイパン、グアム、トラック、クエゼリンを経てマジュロに行きます。途中グアムで一泊といえますから、羽田から出発してもうまく連絡すれば三日目にはマジュロに着くことになりました。

(運賃、その他詳細は、現在調査中)

ヤルト島に向う途中アルノ島に生じた患者を收容のため半日反転し、その中患者が死亡したのでもとのコースに引揚えしたり、ナウル島からマジュロ島へ帰港の航海中エボン環礁に生じた危篤の産婦を收容のため、同島に寄港する等航海中何時変更を命令されるかわからないという状況にあります。事さえないければこの三隻はコブラ(椰子の実)を島々から集めてマジュロまで運搬するが任務なのです。船客の都合ではなくて、コブラの集り具合によつて船の行動がきめられます。従つてマジュロで待つていれば、何時かは必ず行けるのですが、日をきめて予定を立てることはできません。

政府の補助金をうけている関係もあって、いつの航海も般室はたいてい一般船客が使用しますのうで、一般船客は甲板の上か船倉のようなどころに寝るより外ありません。私達もミリートビ号でヤルト島

に行くときは青天井にキラキラ輝く星をながめ乍ら甲板に寝ました。が背中がいたて寝つたかれませんでしたが、ラリックラッタック号でギルバート諸島を回るときは坐ることさえない低い蚕棚のような所、上と下も四周もドス黒くよごれた、コブラの醗酵による臭気の充ちた床に寝て半月の航海をすごしました。これを耐えぬく覚悟がありませんと、島回りはできません。これがマーシャル諸島戦跡回りを希望される方に予め御承知いただきたい事どもです。

## 本年二月六日の慰靈祭と

### 定期總會の経過報告

今年も前夜(五日)から九段會館に泊られた方が三十名。例年の通り本部役員が御世話にありました。毎年お泊りの常連も多数おられ楽しいお話がつづきました。現地からの8ミリ映画や幻灯になりますとシーンとなつて時のたつのを忘れたかのようでした。沖繩からわざわざ御上京の金城栄子様旅行のお疲れどころか一言半句聞き洩らさじと現地派遣員の話に耳を傾けておいででした。

今年の二月六日は、去年二幹事を現地に派遣したこと、本年中には現地の建碑が実現するというので参加申込も多数でした。

神社の扉の開くの待ちかねて参著された方もあり、北は北海道釧路から南は前記のとおり沖繩に及ぶ全国各地から集まりました。土屋太郎様林幸市様木下甫様など現地でながく従軍された方々を囲んで聞き入る微笑ましい車座もあちこちに見受けました。

やがて定刻十一時、三百五十名を超す参会者は拝殿に導かれ、修祓の後、英靈に聞えるよう高らかに海行かばを合唱しました。

お馴染みのNHK新井英幸氏の伴奏は一層その雰囲気をはきしめ、二十余年前激しかった戦場を想像し乍ら感慨まことに無量でありました。一同が本殿に進む間、新井さんが奉奏の数々の曲は何れも英靈に親しみ深いもの。この曲もあなたも聞き覚えがあるでしょう。今日

は母があなたに會に來ましたよ」と告げる母の姿もありました。本殿では斎主の祝詞奏上のおと副会長村上義一殿の祭文の奉読にはそれまで張りつめ我慢していたのが急に胸にこみ上げハンカチを目にする御肉親が目立ちました。一同心酒、新靈を受けて退下したのが正午少し前でした。靖国神社から九段會館の大食堂に移り一同昼食を共にしました。定期總會では、

一、本年から本会々則第十條に規定した会費の制を採り年会費を五百円とする。但し全員がこの額では会の運営をつづけることが不可能故有志の方は同じ十條の規定による寄附金として御協力下さるようお願いする。会費納入者氏名は環礁には掲載しないが寄附金の部分は環礁の寄附者芳名に掲げて謝意を表する

二、本会の事業として従來通り機閱誌環礁を年二回発行する

三、会則第七條の規定の常任幹事二名を三名に改める

以上が全体一致で可決されました。このあとひきつづき現地に行つた兩幹事の報告が行われました。予定時刻に一応閉會しました。御希望に依り小食堂に移り8ミリ映画とスライドで時のたつのも忘れ、黄昏どき明年を楽しみに三々五々帰郷の途に就きました。



# タラワ島にて

佐 竹 エ ス

私達がヤルト島慰霊中マジエロからのラジオ「ラリックラック号がナウル島に行く」というニュースがありました。この便を逃したら何時またナウル行があるか判りません。島民の協力によつて、カトリック教会の短波無線電

話を貸していただき同船をヤルトに回航し、私達を収容してタラワ島マキン島オーシャン島に寄港の上ナウル島に向うよう長官並びにミエロ社長に歎願しました。私達の希望は容れられ、翌七月二十日午後三時半同船に乗船できました。これらの島は英国に属しますので、内地出港前英国領事館にビザの申請にゆきましたが、あまりの離島故近況は全くわからないが

体に気をつけ帰国したら状況を総領事に知らせてくださいと頼まれました。又多くの方からマインシャルからギルバートに渡ることには女はとても無理だとも聞かされてい

ました。ヤルト島からだとマキン島の方が近いのですが、政庁がタラワ島にあるので、こちらに先行し七月二十二日(土)午前三時タラワ島に投錨しました。八時三十分検査、入国手続を了え、十一時上陸しました。タラワ島は昭和十八年十一月二十五日マキン島とともに玉砕全員戦死なされた島です。私達だけの為に特別回航したので午後六時出港ときめられました。墓標、供物、皆様からお供えの土産品、島への土産品、等なるだけ少くするよう心がけての上陸です。丁度土曜なのですぐ政庁に行き慰霊碑建立のお願いをしなければならず、マインシャルのように日本語は全く通ぜず心配でしたが、恰も英霊の導きのように、日本のホンダやスズキのオートバイ代理店のウイルダーさんが小型トラックを提

供して下さり、墓標は下さい荷物をお供えのせて下さいましたので政庁へ行きブリアン・エフ・ウイークス長官に面接し来意をつけ、建碑、戦跡視察を願いました。快諾を得ました。

この島は全島戦死者の遺骸で埋つたようなものです。整理はしま

したが、近く米、英、日三国の合同慰霊碑を建立し、殉国者の冥福を祈るとともに永遠に平和になるよう計画中です。埠頭近くの広場公園を思わせるような緑の芝生の中に建立予定なので、そこに建てられたらよろしいのではないでしょうかと指定して下さいました。

戦跡はウイルダーさんが自動車で行き案内して下さいました。引き潮のため海岸がとても広く、十一月二十日米軍が外海から上陸を企てたとき海岸を進撃してくる米軍は日本軍のため全滅されたのですとの説明に彼等の御冥福を祈り平和を祈りました。三国の合同慰霊碑建立のウイークス長官の企画を嬉しく思われました。

外海側には所々に日本軍の構築した防空壕、大砲、高射砲が赤錆となって残っていました。公園の中央、三国慰霊碑建立予定地に日本から携行の慰霊碑を建て、岡山の船東さんから依頼された位牌、福岡の太田さん水を入れ、江坂さんから托されたお茶、その他お供えした上級かな慰霊祭を行いました。街の中央部ですので多

ぜいの英人、島民が集まり、私達に真似て焼香をしてくれました。長官の招きにより広場近くのタラワ社交クラブに行きました。長官自からクラブに集った人々に私達を詳しく紹介し、自らコーラのコップを渡し、霊を弔い、殉国の勇士に乾杯となごやかな一時でした。ホールに客も久しぶりの日本人とあって握手をもとめ、支配人は長官の許を得て閉店を一時間延期し又日本の軍人に教えて貰った

と太平洋洋行進曲や軍艦マーチを上手に歌ってくれたりバンドは海行かばを演奏して下さいました。一時間ほど長官との交歓の時間を経た上再びウイルダーさんの車で島をまわりました。

日本軍時代の飛行場は綺麗な椰子林に整地され住居もあります。中央に滑走路と思われる道路があり日本製の自動車やオートバイが走っていました。マインシャル諸島の島々は島民も少なく、車もなく、ジャングルの中を荷をかつぎ島民の案内であるき廻りましたがタラワ島は英国の領土とあって、住宅もマインシャルよりはまじです。全島自動車自由に通じますので一周するにも一時間ですみました。

ウイルダーさんには日本酒製の外、どこの島にも進呈した醬油や味のもとを差上げました。日本品は素晴らしいと大変よろこばれ歓迎して下さいました。三国戦死者慰霊碑建設費の一部として米貨百ドルを遺族会から寄贈いたしました。あと同島の真白の霊砂を採集し、長官の車、長官自らの運転で上陸場まで送っていただきました。

島民感情の全くわかりませんでした。心に心配しきつたタラワの慰霊も心残りなく終りました。御好意の自動車で全島を二回に亘つて案内していただきました。飛行場跡や激戦地跡だけ車を下り写真の撮影などなく、住宅毎に広い土地を所有するといふ全島が住宅であり、従つて遺骨の目につくところなど全くありません。戦後まとめて埋葬されたのでありましよう。今は平和に帰つた四千余の英霊に訣れをつけラリックラック号に帰りました。

マインシャル諸島の中でもアルコールの飲めるのはマジエロだけ。外の島にはアルコールをおかせません。思いがけなくアルコールのめぐるタラワにつきまじしたので、虎を野に放すとはこのことでしょう。同乗していたミエロ汽船の重役が酔い潰れたので船員もこれにならない、私達が五時に上陸場を出たときの船員も皆酔っていました。切角本船に上つた船員も服のまま上甲板から飛びこんで陸に向つて泳ぎます。つかまえてい

泳いでいるのをつかまえて、そのまま一しよに上陸してしまふ。手のつけられない光景でした。結局船長とチーフと私達二人だけ残りました。それでも翌朝八時には全員帰船しました。酔い潰れている元気で楽しそうな船旅に入りました。

マイン島もオーシャン島も私達のためだけで航海するのです。船員も船客も迷惑そうな顔一つ見せません。これが日本なら、又私が反対の立場ならと考へ、英霊の守りとはいへ感謝の外ありませんでした。タラワの長官は私達のことをラジオを通しマキン島にもオーシャン島にもナウル島にも放送して下さいましたので、検査も入国手続も簡単に政庁のモーターボートで迎えていただくなど、好都合に経過するのみでした。

左から長官・佐竹・ウイルダー氏



左から長官・佐竹・ウイルダー氏



# 京都市での慰霊祭と

## 現地報告会記録

本年二月六日靖国神社での慰霊祭のとき京都の高津三代治様からパンフレットその他によって詳細の御話を伺い急速に進展し五月二十六、七両日全国から百三十名の会員が集まり盛大に行われました前日の二十五日午前浮田常任幹事は高津様の御案内で京都市役所



慰霊祭(昼間常任幹事撮)

を訪れ、市長室に富井清市長さんをお訪ねし御協力を謝しました。面会者多数お待ちにもかかわらず戦斗経過を審さに聞かれ、本会の生立ち、経過を熱心に聴取され、戦没者の冥福をお祈り下さると同時に遺族の心境に思いを馳せられ敬虔な申意を表されました。市長秘書北条吉郎様、市民相談室長竹村実様など言い表わせぬ御鄭重なお取扱いを受けました。ついで京都市府を訪れ、府会議

長室に府議会農林商工常任委員会委員長府会議員竹村昭様をお訪ねし御協力を謝しましたが先方から現地慰霊碑に關連する知事揮毫、銘石、補助金の進捗状況を尋ねられ恐縮しました。ついで竹村議員の御案内で知事室に伺い山田副知事(蜷川知事外出不在)にお目にかかりました。千原援護課長を呼ばれましたが、戦没者に敬虔な申意を表せられると同時に、戦没者の霊を慰めることは生き残ったものの勤めである旨を力説され、建碑協力につき力強い御指示をいただきました。副知事・市長にお目にかかってよかったと思えました。正午昼間常任幹事、岡野・宇田川・山浦・安藤つづいて佐竹各幹事が京都市役所・高津様を中心とし御指示を仰ぎつつ夜遅くまで準備をいたしました。

二十六日は朝来の好天氣に恵まれました。高津様はじめ世話係りが九時に会場である旅行会館に着いたときは既に七時から待つ九州からの会員がおられました。いつものように会員皆様が手を貸して下さり、受付も整い、祭壇の準備も、映画の準備も整いました。祭壇は国旗の前に設け、右には蜷川京都市長、左に富井清市長の供花が飾られ祭壇には現地派遣員のお迎えに来て来た戦域二十七島の靈砂を供えました。

慰霊祭も報告会もすべて高津様の司会に従い進行しました。

開会の辞、本部からの御挨拶、祭文奉読、遺族代表、竹村議員殿府民生労働部援護課中谷主査殿の献花と進められて無事慰霊祭を了えました。

つづいてその席で現地報告、8ミリ映画、スライドをまじえ三時半までつづきました。一同お疲れも忘れ、一言一句もききのがさぬよう熱心にお聞きになりました。報告がおわり休憩のあと京都市役所、京都市水道局によるアトラクションに移りました。

慰霊祭に立派な生花をお供え下さった富井市長さんが格姿で、都山流の大曲を英霊のため、そして遺族のため奏して下さいました。水道局職員による謡曲、仕舞、会員の飛入謡曲、京都市役所職員の方々のハワイアン演奏、軍艦マーチが出たりバラエティーにとんだ数々の曲に朝来の緊張もとけました。

高津様の周到な御計画によってそのあと休憩一時間。旅行会館には土産品の売店もあり、喫茶もあります。お土産をさがしたり、入浴をしたりゆつくり休みました。夕食、懇談会には百余名参加、高津様のユーモアたっぷりぶりの司会に生徒時代に戻った皆様は大広間に並べられた四列の膳で楽しい夕食をとりました。残された遺族がこのような雰囲気を感じると同時に高津様の御執旋を感謝すると同時に英霊各位もお喜び下さっているのではないかと思われました。懇談のあと七時から再び8ミリ、スライドをつづけました。福井県からわざわざこの集りの

京都御所での一行(佐竹幹事撮)



ためおいで下さった元クエゼリンの第六根拠地際参謀木下甫殿又当時の航空隊でマシシクル地区ギルバート地域で勇戦奮闘された岡山県の高田源次殿、大阪府の柴田進殿の実戦談も承りついで夜のふけるのもしらず懐旧の夕をあかしました。翌二十七日は高津様の格別のお取計いによって一般の京都観光個所の外京都御所(特別の案内の方がついて下さり、普通では拝観出来ないところまで案内をいただき十分に拝観出来ました)北川友禅工場等見物してまいりました。

地元高津様がバスの中での御説明は普通のガイドでもしらないお話を交えて次から次に水の流れる如くつづけられ一同陶酔の気分にお互い、切角お近づきになったお頭にて再会を誓いながら東に西に又北にとたもとをわけました。お蔭様でいつまでも印象にのこる二日間でありました。

## マーシャル諸島墓参の御希望のある方へ

サイパンの信託統治領政府に勤務するサブラン(Mr. Joaquin J. G. Sublan)さんから今年年頭に入国申請書用紙(Application to visit)が送って来ました。本会昨年の現地派遣員の行動に好感をもたれたか、本会々員マーシャル墓参旅行許可の同意と了解します。六月に入り再び送付を受けました。どなたか現地墓参御希望の方がいらっしゃらば本部に御申下下さい。送付の用紙により申請し、渡航手続等お世話いたします。

船便或は航空便によってマジュロ島まで行かれたとしても8頁に掲載したとおり、マーシャル諸島の船便の関係もあって内地の旅行のように簡単にはまいりませんが御希望の概略をお知らせ下さり、それぞれについて具体的の計画につき御相談いたします。

## 「環礁」

春の潮

礁に砕けて

玉と散る

萩原ト山

昨夏、浮田・佐竹両氏の現地派遣行動中の労苦を偲び白桜会の萩原ト山先生



### 遺族援護に係のある

### 法律改正等の御案内

このことについては、新聞、ラジオ、有線放送、役場の掲示等いろいろの方法で公示されてはおりますが、つい気がつかないために国からの恩典を受けずにおいでの方がよくあります。大筋だけ載せませんから、自分もこれを受けられるのではないかと思はれる方は至急本会事務局の方へ御通知下さい。事務局でわからないことは関係官庁にお尋ねしてお答えします。

今回は次の三つについて御説明しますが、この外にも、戦死者遺族の援護が受けられるであろうと思はれることについて御不審がございましたら何なりと御申越下さい。

- ① 勲〇等という勲章はお受取になりましたか
- ② 戦死者の父母等に対する特別給付金について
- ③ 戦死者等の遺族に対する特別弔慰金について

① 勲章は、お受けになりましたか  
太平洋戦争で戦死された方々は国からの顕彰の一つとして勲章が贈られます。勲五等とか勲八等とかの勲章です。

当然願出や請求を待たずに贈られるべきものではありませんが、まず第一にお送りすべき遺族の現任所が判らない事、受けとる遺族が誰なのか。それが判りません。又戦後二十年余も経った今日勲章を

いただいて悲しみを新にしたくない、又ある人は子供の玩具のようなバッヂは貰いたくない。など様々の理由がありまして一応関係の役所から書面をもって勲章を受けとるかどうかを問合されます。それも現住所でなく本籍地の都道府県庁からこの問合せを出してその返事によって事務がすすむので

先日埼玉県にお住ひの小林喜助様(戦死者の父)から事務局にあて「毎月末戦死者叙勲の発表有之候へ共クエゼリン島戦死者の発表未だ無之と愚考仕り候。クエゼリン島以後の年代の戦死者にして既に発表者多数有之候。恐れ入り候へ共御意見拝承致し度候」とのお願いを受けました。

実は今から三年前昭和40年に、本会では厚生省からの依頼によって約二十五万人の死没者叙位叙勲調査票の作製のお手伝いをしました。

勿論そのためとは申しませんが本会々員中既に叙位叙勲が発表され勲章を受けとられた方は多数に及んでいます。

小林様のお手紙を見て事務局がびっくりしました。そして早速

「戦没当時の本籍の都道府県庁の世話課(課名は都道府県によって異なりますから、お判りでない方は都道府県庁の所在地と正確な課名をお知らせいたします)に戦没者〇〇〇〇の遺族〇〇〇〇は現在

〇〇〇〇に住んでいるが、勲章をまだうけていないのでよろしく頼みます」と通知を出すようおしく頼みましたところ、六月四日小林様から「前略、過般故長男小林芳郎叙勲の手續きに付御教示通り本籍地、新潟県民生部援護課へ照会致し候処左記回答有之候。

一、右調査票は去る四月二日付を以て埼玉県に調査依頼を実施せり。二、埼玉県より回答有り次第一ヶ月以内に上申し、発令後は現住所の県より伝達される。右不取敢御通知申上候」というお返しがき戴きました。

勲章未受領の方は至急事務局に御連絡下さればそれぞれ御指示いたします。

② 戦死者の父母等に対する特別給付金について

これは昨42年7月に公布になり即日施行されることとなつた法律によるものです。この趣旨は「日華事変以後の戦斗等において、子又は孫を失ひ、子孫が絶え、筆舌につくし難い孤独と寂寥感に耐えてこられた父母、祖父母に対する慰藉にあります。戦死者死亡当時戦死者以外には子も孫もなく、戦死者死亡後、昭和42年3月31日までの間に自然血族たる子又は孫を有するに至らなかつた者に対し、額面十万円、五年償還、無利子の国債を以て支給すると云うものであります。

これにあてはまるのではないかとお考えになる戦死者の父母、祖父母の方がございましたら事務局にお知らせ下さい。お調べして差し上げます。

### 靖国神社御創立百年奉祝大祭に 御賛同の方へお願い

弔慰金について

これは環礁第5号16頁の事務局だよりによってお知らせしましたが、本年二月東京都世話課から再び御親切な御知らせをいただきましたので、お伝えいたします。

この法律の趣旨は昭和40年4月1日現在、戦死者の遺族のうち公務扶助科または遺族年金等を受けている方が居ない遺族で、次の各号に該当する方

(1) 戦傷病者戦死者遺族等援護法という法律による弔慰金(5万円もしくは3万円国債)をうけた遺族の方

(2) 弔慰金をうけた方が、死亡もしくは再婚等をした場合は、戦死者の子、父母、孫、祖父母、兄弟姉妹の順序による先順位の方

ただし、戦死者の子を除いては、次の各号に該当する方に限る。

御賛同の方へお願い

明年は靖国神社が創立されてから丁度百年になります。神社としては、明年の十月十九日から二十一日の三日間を御創立奉祝大祭と定め、行幸啓を仰ぎ厳肅盛大な祭典執行の準備をすすめております。

本会会長もこの奉祝奉賛会の理事の一員として企画に加はっておられます。同封の葉に奉祝祭典、奉祝行事、記念事業の計画がのっておりますが着々と準備がすすんでいます。

この葉御一読の上御賛同の方は同封の振替用紙をもって直接奉賛会へ奉賛金をお送り願います。

奉賛会からの御依頼によつてここに掲載いたします。

受付締切期日はありませんが明年二月末までにお送り下さつたらよろしいと存じます。



# クエゼリン島に建てる

## 忠魂慰霊碑の製作始まる

常任幹事 佐藤 宗一

六月九日午前六時。二台の車は新緑の水戸街道を一路茨城県笠間市稲田に向った。案内役は慰霊碑施工委任者の第一石材株式会社内海社長(本会会員)である。

九時過ぎ、目指す友常石材株式会社に着く。早速友常社長、御子息夫妻と製作上の打合せを行う。既に役員会で決定された仕様書、設計図に基き、細目を取りきめ、各県知事揮毫銘石を手渡した。流石に各県の世話

課が選定した夫々の県の銘石とあって一つ一つに特徴があり、中には帯止やカフスポタンにしたい程きれいなものもあった。

各県知事の揮毫は夫々の風格が偲ばれ、碑完成の時は世に稀な文化財として語り伝えられることと思われる。

友常社長は「会の皆様が皆崇高な御気持ちでこの事業を推進されているのに感激しました。私共も皆様の御手伝いをさせて頂く心で、しっかりと仕事をします。」

全国の会員に宜しく御伝へ下さい。御許しがあれば、朝香名誉会長の御揮毫を家宝にさせて頂きた



友常石材採石現場にて本会原石切出し(昼間常任幹事撮)

い」と述べられた。ついで、山の採石現場に登った。三階建ビルディング程もある稲田御影の巨大な、しかも美しい素肌にしはし茫然。そして感嘆。本会の為に特に良質の所を使う由。その原石の前で現実の作業をして下さる方々と記念の写真を撮り、工場の内部を見せて頂いた。

昔と比較すれば随分機械化されたそうではあるが、重く大きく固い御影石相手の御仕事の労苦さぞかしと思われた。慰霊碑は、八月中旬完成予定とれない県の分の到着次第で若干遅れることもある由。

未送付県の御協力を切に御願したいものである。

## 第四期決算報告と昭和43年度予算

常任幹事 佐藤 宗一

### 昭和43年度予算

1 収入	
42年度より繰越	676,242
会費 500円×1,500人	750,000
寄附金	747,000
賛助金	1,000,000
受取利息	5,000
収入計	3,178,242
2 支出	
現地慰霊碑建設費	1,867,000
事務用品費	20,000
印刷費	80,000
刊行費	264,400
会議費	15,000
運営費	600,000
通信費	54,000
定期慰霊費	40,000
現地報告会費(京都)	80,000
事務所借料	120,000
振替払込料	30,000
雑費	7,842
支出計	3,178,242

### 第四期決算報告書 (自 42. 1. 1 至 42. 12. 31)

1 収入	
前年度繰越	1,198,715
寄附金	3,920,621
受取利息	39,126
雑収入	16,340
収入計	5,174,802
2 支出	
現地事務	2,852,479
派遣用品	12,590
印刷費	84,987
刊行費	397,312
会議費	16,610
運営費	248,210
通信費	556,000
2月6日慰霊祭	37,739
振替払込	56,575
現地報告	5,000
調査費	52,598
支計	178,460
支出計	4,498,460
3 期末有高	
普通預金	8,553
振替預金	77,689
通知預金	590,000
預金計	676,242
	(次期繰越)

### 今後の予定

本部より

三、入魂式

七月十五日までに受領期待完成 八月中旬

二、慰霊碑完成直後

一、碑名 朝香名誉会長揮毫  
会名 石橋顧問夫人揮毫  
碑文 林会長署名 受領済  
各県知事の県名揮毫と銘石は

期日 慰霊館(芝白金台町)場所 迎賓館(芝白金台町)参列希望者には日時等決定次第御案内状を送りますから、至急本部宛御申込み下さい。

四、現地への輸送、入魂式後横浜にて梱包、最近便にてクエゼリン島に直送します。  
五、友常石材会社での碑製作中の現場見学希望の方は七月十四日又は二十一日バス又は汽車で御案内します(費用自弁)御希望の方は至急御申込み下さい。



現地の写真をお頒けします

派遣員が昨年現地で撮影してき  
た写真は千枚を超え、前号の環礁  
発行までにお頒けする準備がで  
きませんでした。その後整理の結果  
左の十三組(十二枚)に別け  
ました。

- 一輯 クエゼリン本島
二輯 クエゼリン環礁中エビゼ島
三輯 クエゼリン環礁中ルオット島
四輯 ウオッゼ島
五輯 マロエラツブ環礁中タロア島
六輯 マジユロ島
七輯 ヤルト環礁中ジャポール島とエニポール島
八輯 ヤルト環礁中エニポール島とイミエジ島
九輯 ミレ島
十輯 タラワ島
十一輯 マキン島
十二輯 ナウル島
十三輯 オーション島

等予期しない光線の事情に悩ま  
れました。

どの島に渡りますにも三・四百  
トンの小さな船で、時には怒濤に  
もまれたあとすぐ上陸し戦跡巡り  
を強行したり、多くの島が今なお  
自転車さえないので徒歩で廻る外  
ないなど、恵まれませんでした。  
兩人共常に手提カメラの外に小型  
写真機二個、中型写真機それに8  
ミリの撮影機を携帯して酷暑の島  
を歩きました。構図を考へたり、  
人を配置よく並べるといった写し  
方は出来ませんでした。従ってピ  
ントのあつていないもの、明暗の  
ととのはないものなど様々ですが  
これが精一ぱいの作品であったこ  
とをお察しいただきたいと思いま  
す。各組とも①から⑫までの番号  
を附し簡単な説明をつけました。  
価格一組二〇〇円(郵送の場合  
郵送料として上記の外二〇円)  
これらの写真は大部分カラー原  
板ですが焼増を希望される方には  
左の値段段でお頒けします。

Table with 3 columns: 種類 (Category), 大きさ (Size), 価格 (Price). Categories include 一、キャビネ版 (1 cabinet plate), 二、名刺版 (1 business card plate). Prices range from 100 to 150 yen.

環礁7号の事務局だよりで御紹  
介しましたとおり、地方で現地報  
告会を行われる場合は現地派遣員  
が8ミリ、スライドを持参し、御  
覧にいたしますが、ファイルの貸出  
しはいたしておりません。

寄附者芳名

(四二八名)

- 今回もまた多数の篤志会員その他や、会員各位から御寄附、御  
拠金を頂きましたことを御報告いたします。皆様の任意の温い浄  
財によって定例慰霊祭はもとより、代表の現地派遣取骨慰霊、又  
現地の慰霊碑建立等着々本会の目的を実現出来まますことを厚く感  
謝申し上げます。この外全国都道府県から、他に例のない本会の  
現地建碑の企画に御協力下さいまして、多額の補助金をいただき  
つありますが、これは建碑完了の際改めて発表することにした  
したいと思います。本年の総会の決議により、本年から会費制と  
なりましたが、この会費は会員のすべての方から集めるのですか  
ら環礁には納付者氏名は掲載しないこととし、会費の外に寄附を  
下さった方の芳名だけ掲載して、御礼を申しあげることになりま  
した。別項にもおべました通り、年額五百円では到底本会の運営  
は続けてまいれません。孤独の御老人など家計不如意の方も沢山  
おいでになりますので、相互扶助の願いからも、お差支えない程  
度の任意随時の御寄附の御協力をお願いいたしたいと思います。  
(昭和四二、一、二、一から昭和四三、四、三〇までに入金した分)
- 寄附額 芳名(敬称略) (は寄附回数数字)
- 篤志会員その他  
八〇〇〇〇 東京都共同募金会殿  
五〇〇〇〇 塩野 宜徳殿  
三〇〇〇〇 井上 義要殿  
二六〇〇〇 山村 要殿  
二二〇〇〇 高橋 武雄殿  
二二〇〇〇 大矢野 弘殿  
一〇〇〇〇 嘉村 栄殿  
" 十二 徳次殿  
" 土屋 太郎殿  
" 林 幸市殿  
" 船本正二郎殿  
" 三角 芳貞殿  
" 三宅藤之介殿  
" 赤松 光殿  
" 吉井 初代殿  
" 具志忠太郎殿  
" 五〇〇  
" 5 \$
- ◇北海道  
五〇〇〇 兄 助光 正蔵(1)  
二〇〇〇 母 野戸 タカ(3)  
一〇〇〇 妻 安達智恵子(4)  
一〇〇〇 母 阿蘇 林蔵(2)  
" 母 和泉くによ(2)  
" 母 金子 きよ(3)  
" 母 鈴木 とみ(3)  
" 父 沼山長一郎(6)  
" 父 天野 茂(1)  
" 父 大口勝太郎(1)  
" 父 幸市殿  
" 父 船本正二郎殿  
" 父 三角 芳貞殿  
" 父 三宅藤之介殿  
" 父 赤松 光殿  
" 父 吉井 初代殿  
" 父 具志忠太郎殿
- ◇青森県  
二〇〇〇 妻 工藤 ハナ(8)  
一〇〇〇 父 工藤不二太郎(3)  
" 母 高山 かや(2)  
" 父 田中孝太郎(4)  
" 妻 塚原 ハナ(2)
- ◇新潟県  
三〇〇〇 父 権谷 武雄(3)
- ◇岩手県  
五〇〇〇 兄 八重樫庄之助(1)  
一〇〇〇 父 佐々木利蔵(3)  
" 父 千田徳兵衛(8)  
" 妻 中山 リヨ(1)  
" 母 菊地ナツエ(1)
- ◇宮城県  
一〇〇〇 妻 大森さきみえ(3)  
" 妻 平形 せい(5)
- ◇秋田県  
三〇〇〇 母 熊谷サタヨ(5)  
一〇〇〇 母 片岡 よし(1)  
" 父 小室舜司郎(3)  
" 父 佐々木三郎(6)  
" 妻 千田 恒子(3)
- ◇山形県  
一〇〇〇 兄 鈴木兵右衛門(1)  
一〇〇〇 母 赤塚 ギン(1)  
" 妻 大泉 時子(2)  
" 妻 大場美津子(5)  
" 母 沢井よし子(4)  
" 父 滝口 平治(1)  
" 妻 本間 折恵(2)
- ◇福島県  
五〇〇〇 妻 関根 チヨ(5)  
三二〇〇 長女 菊地 レイ(1)  
三〇〇〇 母 皆川 タツ(3)  
二〇〇〇 弟 鈴木 忠雄(1)  
一〇〇〇 父 石橋サツキ(1)  
" 兄 末永 進(1)  
" 父 二階堂勝蔵(2)  
" 父 吉田 肇(3)  
" 父 半谷 辰貞(4)  
" 妻 大須賀ヨネ(1)  
" 母 武田サツヨ(3)  
" 父 古川 太重(1)
- ◇山形県  
一〇〇〇 父 成田辰三郎(2)  
" 姉 伝福 ちよ(6)  
" 父 浜館源太郎(1)











### 事務局だより

#### 二十五五年祭の構想を求む

明四十四年は二十五五年祭を行う年になります。発会以来皆様方より、戦域の調査も、収骨も現地慰霊も了り、その中現地の慰霊碑も建立されようとしています。三万五千柱の英霊もそれぞれ落付かれたことと御同慶の至りです。そこで明年は有意義な二十五五年祭を行いたいものがございます。来年の二月六日は木曜日なので二十年祭のときのようにNHKの宮田輝さんにお願いは無理と思います。何なりと御希望を御申越下さい。宮内庁の参観係にお尋ねいたしましたところ、皇居の御改修工事も十一月には終了の由。来年二月頃なら大丈夫であろうとの御返事でしたので、これをスケジュールに加えたらと役員間の話題となっています。活発な御意見をお待ちします。

#### 靖国神社またま祭に本会の大型献灯を奉納しました。

今年もまた七月十三日から十六日まで靖国神社々頭に本会の名を大きく墨書した大型の献灯をいたしました。ことを御報告いたします。右期間中献灯がともしつづけられます。

#### 本部の移転

本会本部は創立以来日本橋筋般町の泉商事株式会社内に置き、事務は世田谷区内で行い、四十一年から事務も新設町に移し、約二年お邪魔をしておりましたが、泉商

事株式会社の日をおつての御繁昌御発展と本会事務量の増大によつて、同社への御迷惑いよいよ多かつ本会の事務遂行に事欠くに至りました。このため昨年春以来役員総がかりで物色しましたが、帯に短し、褌に長しと決めかねておりました。やつと本年三月別記のところに一室を得て移転いたしました。今後は本部と事務所が同一の場所であり、幸い浮田、昼間両常任幹事自宅の至近距離に在ります。平日は午前九時から午後五時まで執務いたしております。前記どおり両常任幹事の自宅に近い夜間でもいつでもお出かけ下さい。本部詰めの職員が少ないので外出中や会議・旅行等で不在のときは御迷惑をかけますから御用のときは二、三日前に電話又ははがきで予めお知らせ下さい。

#### 概略の位置御案内

東京渋谷と横浜を結ぶ東京急行電鉄(東横線)の「学芸大学」駅で下車して同駅の西口を出た所の「トミヤ時計店」に本会への案内図をおいでありますからお受取り下さい。そこから徒歩十分です。東北線、常磐線等で御上京の方は上野から地下鉄の日比谷線でお出下さい。「学芸大学」駅に連つております。

東京駅で下車の方は中央郵便局の前から出る「桜新町」行のバスに乗りますと三十分余「碑文谷公園前」というバス停で下車し、右側の小林という自動車修場工場で聞いて下さい。徒歩四分です。

#### 会費の納入について

主として会員の納入する会費によつて運営することとなり、その年額を五百円と決められました。環礁7号で本会が今後会費制となった場合、その年額について会員の御意見をうかがい年額

五〇〇円がよい  
一〇〇〇円がよい

という三つの中どれかに○をつけようお願いしますところ、七割が一〇〇〇円或はそれ以上、三割が五〇〇円或はそれ以下というお答えでした。多数決なら簡単ですが、本会の場合国からの遺族援助が少ないため、家計不如意も手伝つて悩む御病人、身寄のない御老人などお困りの方が多数おられます。発会以来本会の目的とした相互扶助の精神から少数の方の御希望額に決まりましたが、八頁にもありますようにこれでは運営ができないため、有志の方の任意随時の寄附を待つことに決められました。

御送金時期は明年以後は毎年一月三十一日迄、本年分はなるべく早くお送り下さるようお願いいたします。御送金方法は振替貯金が一番御便利かと思いますが、現金書留、為替、小切手、郵便切手何れでも結構です。振替用紙は御請求下さればお送りいたします。

環礁5号でもお知らせしました。振替貯金で御送金の場合は、郵便局から渡される領収書を本会からの仮領収証とし、寄附金を送られた場合は次回環礁の寄附者芳名の欄で御確認下さいませようお願いします。

### ◎ 本会役員及び篤志会員

名譽会長	朝香 鳩彦	監事	橋口 昭利
顧問	石橋 湛山	監事	末広 正男
相談役	朝香 孚彦	篤志会員	有馬 成甫
会長	林 茂清	篤志会員	板垣 徹
副会長	加藤善佐次郎	篤志会員	大野 克一
副会長	村上 義一	篤志会員	瀬沼 光久
常任幹事	浮田 信家	篤志会員	土屋 太郎
常任幹事	佐藤 宗平	篤志会員	中島 昌彦
常任幹事	昼間 栄平	篤志会員	成田 虎一
幹事	秋山 正清	篤志会員	成田 喜代治
幹事	井上 賀雄	篤志会員	長谷川 栄次
幹事	宇田川 和彦	篤志会員	長谷川 敏
幹事	木村 久子	篤志会員	林 幸市
幹事	国松ふみ江	篤志会員	松平 永芳
幹事	小泉 文江	篤志会員	村岡 達志
幹事	佐竹 エス	篤志会員	安藤 小夜
幹事	萩原金次郎	篤志会員	白鳥 梯子
幹事	山浦 信子	篤志会員	木本 光江
幹事	岡野 正文		

このことは環礁5号でも7号でもお詫びを申しつづけております。昨年十月現地から帰りましてから決して忘れり怠けていたのではありませんが、次から次へ会務に追われままだまっております。折角見てきたのでありますから必ずまともて、御霊前に供えていただく故人の遺照一巻を完成いたしたいと思っております。既に代価までお送り下さった方々にはお詫びの申し上げます。重ねて忘れておりませんことを明記し、お待ち下さいますようお願い申し上げます。(浮田記)

#### ◎ 在庫品について

環礁6号にも載せました通り環礁は新聞、雑誌と異なり、1号か

**本 部**

郵便番号一五四  
東京都世田谷区野沢  
三丁目十一番三号  
マーシャル方面遺族会  
電話(東京)三三六四番